

羅  
魚  
鱗  
印  
集  
前  
編





了... 卷... 了... 存...

... 海... 卷... 了...

... 世... 文... 宗... 卷...

... 地... 况... 卷... 了...

... 一... 一... 句... 以... 了...

尾維頌賦以興正無以  
多矣人自此體用  
為家也毛以  
一境一  
多

多  
一  
不  
百

考七十有五  
廉上之  
沈以百一  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五

考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五  
考七十有五

真多子 編綴已

舞之氣之序也

之業以究以之

之風月之志也

書之今中以毛書

取之筆法以編

之氣以一書

之氣以一書



元保十 菊月

元日や 家

河舟 舟のしき

心機 波のし

羅佛



舟のしき

樹のしき

およそ 船

舟のしき

舟のしき

友喜



空々中

花

色

初

東

草



君

代

世

花

花

花

花

子





柳河



あゝあゝ

あゝあゝ  
あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ



あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ



凡そとて

ひき

ひき

麻の糸

興挺



来風や

ま

ひき

人あり

樽白



油のり

枯草のり

笈の紙

一鷲舎

草行



算の戸

うまのり

あまのり

うまのり

花大江

那波丸



萬歲年遠

大事耳

已子

入歲可程

吸井



伊具多飛歎

祇可每傳美

亭裳那

之知堂

程

長齡舍

芳子



遊々齋西遊

伏々通

世々

出々

入々

出々



春の風

州の風

門の風

長

長

長



一丈二寸  
 三寸五分  
 四寸五分  
 五寸五分  
 六寸五分  
 七寸五分  
 八寸五分  
 九寸五分  
 十寸五分

破魔のや  
 紫のや  
 古のや  
 二のや  
 中のや  
 五のや



吹く水風

流るる水

水

の  
 水

水  
 水  
 水



りねお

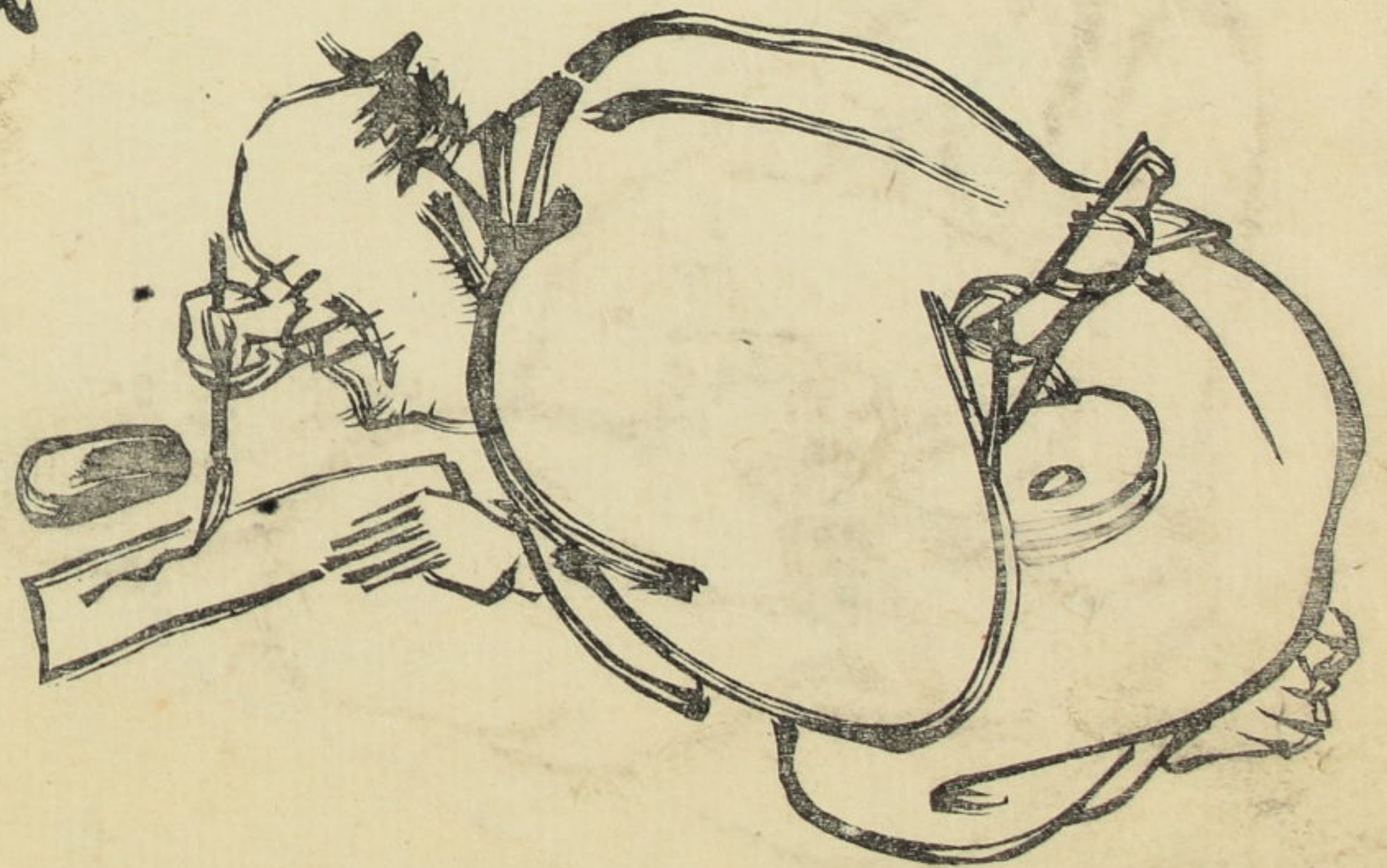
ありお

えゆほ

ふたの山

梅の香

樽丸



志良茶の

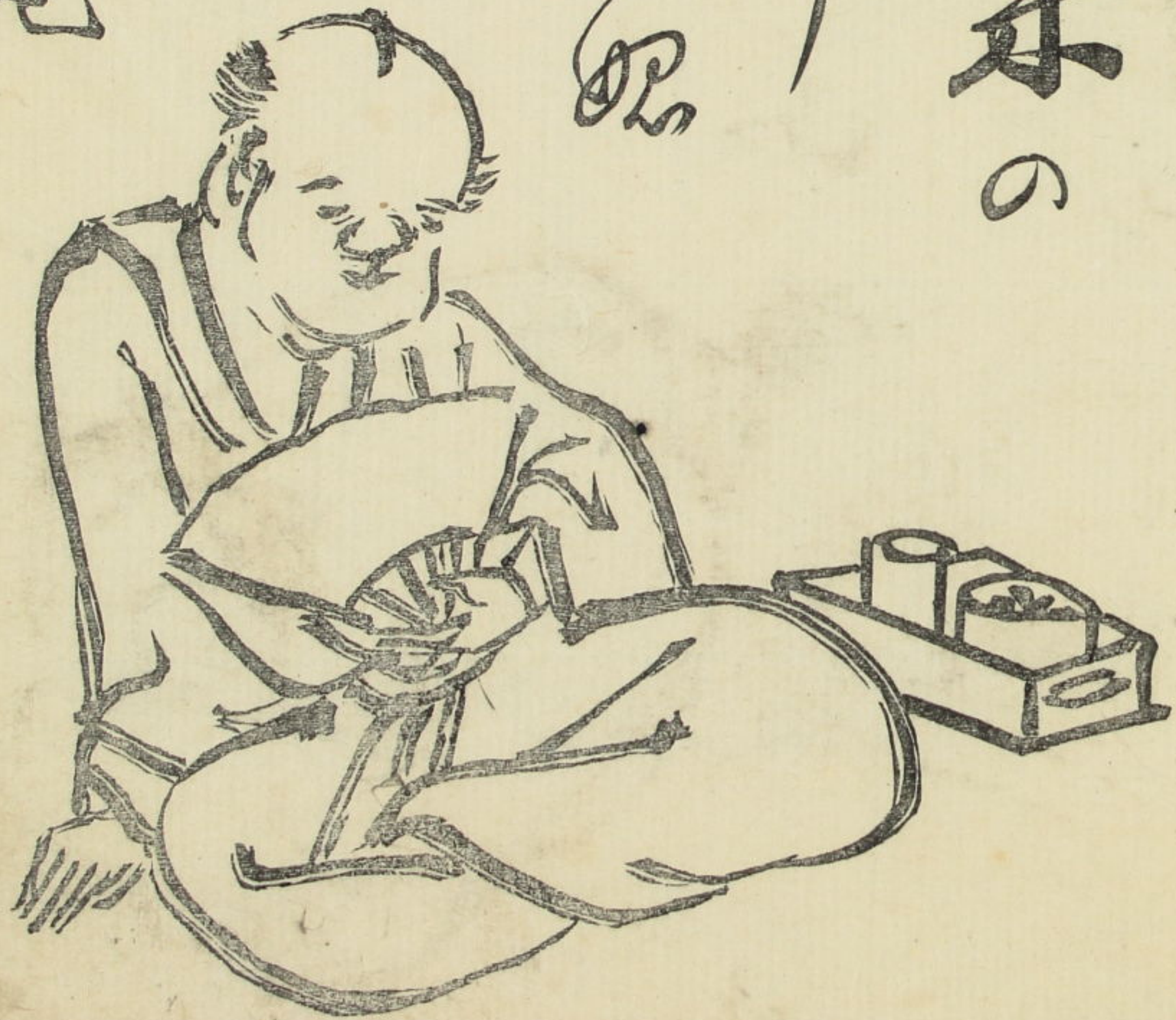
せり

ふつとまね

喜楽多

可那

後丸



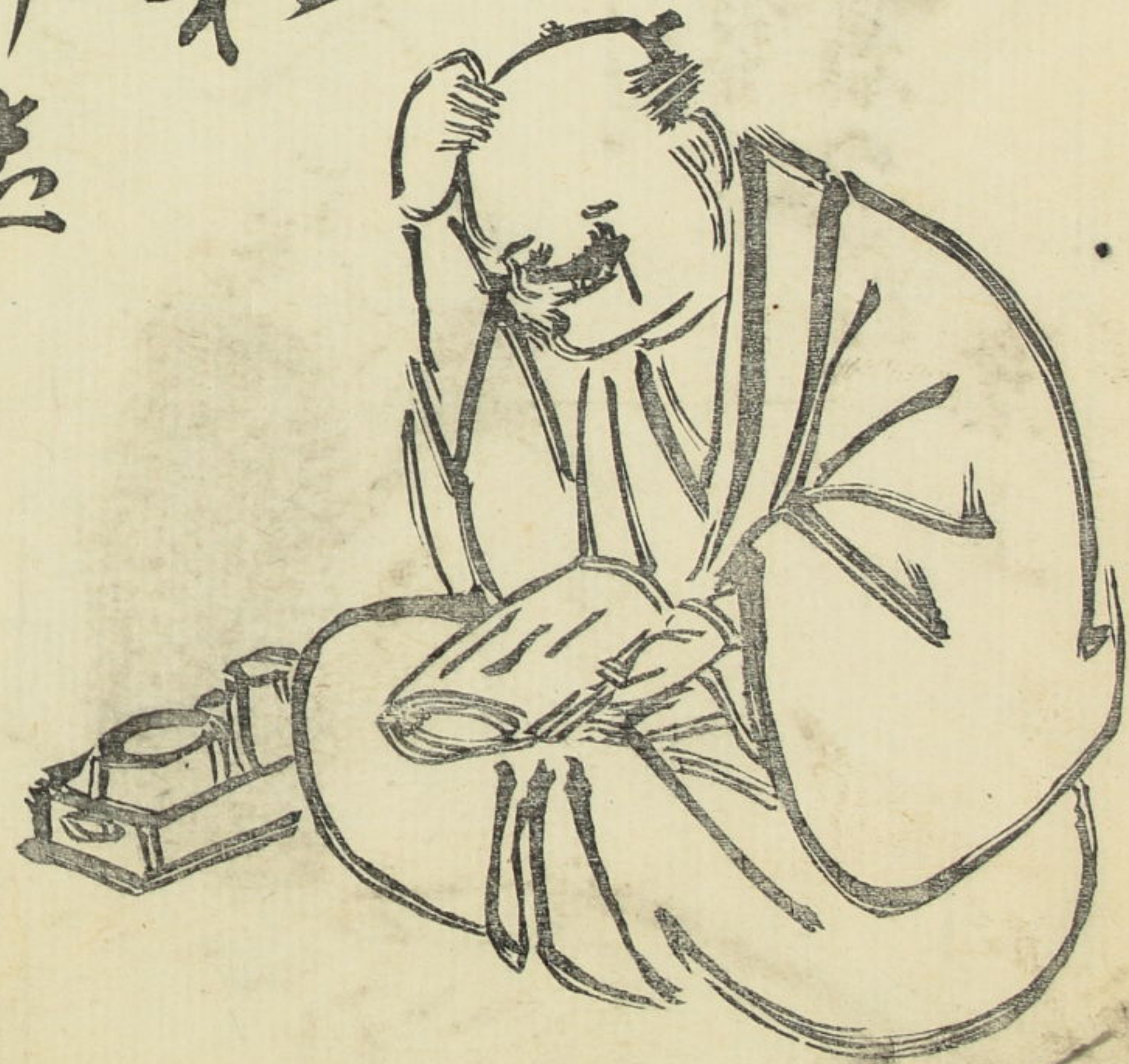
朝空如

雲の光

多味

岸の如

川忠



枝打ん暮り

山路を

云々人

竹やぶ風夜子

屋と勢

暮の月

桑山

金太十二才筆





羽立能く  
 新里了  
 花乃  
 下



扇朝

月心

心比花

冬来

玄

持書

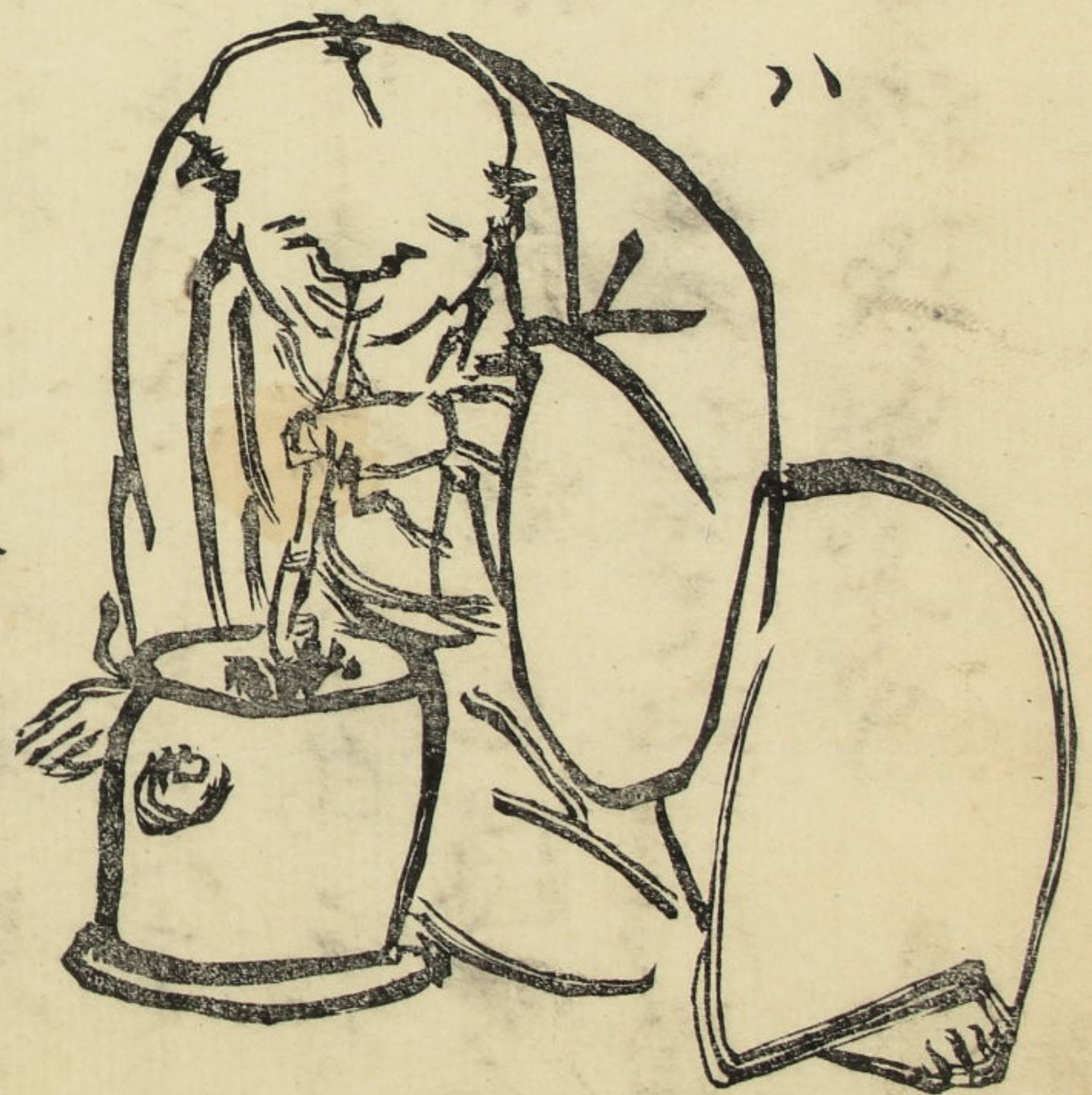


月廿八

力

原

南



集子

六十二卷

扇山

予多之元とて家之——耕  
我業之末終ハ且智短戈  
工——書之字とてと久あり  
佛之力微——依て糸之字  
推乃甲之拾ハ餘利七律心  
假名之字傳ハるる已き心津頃  
義仲寺子我我我我

唐山人

毛川

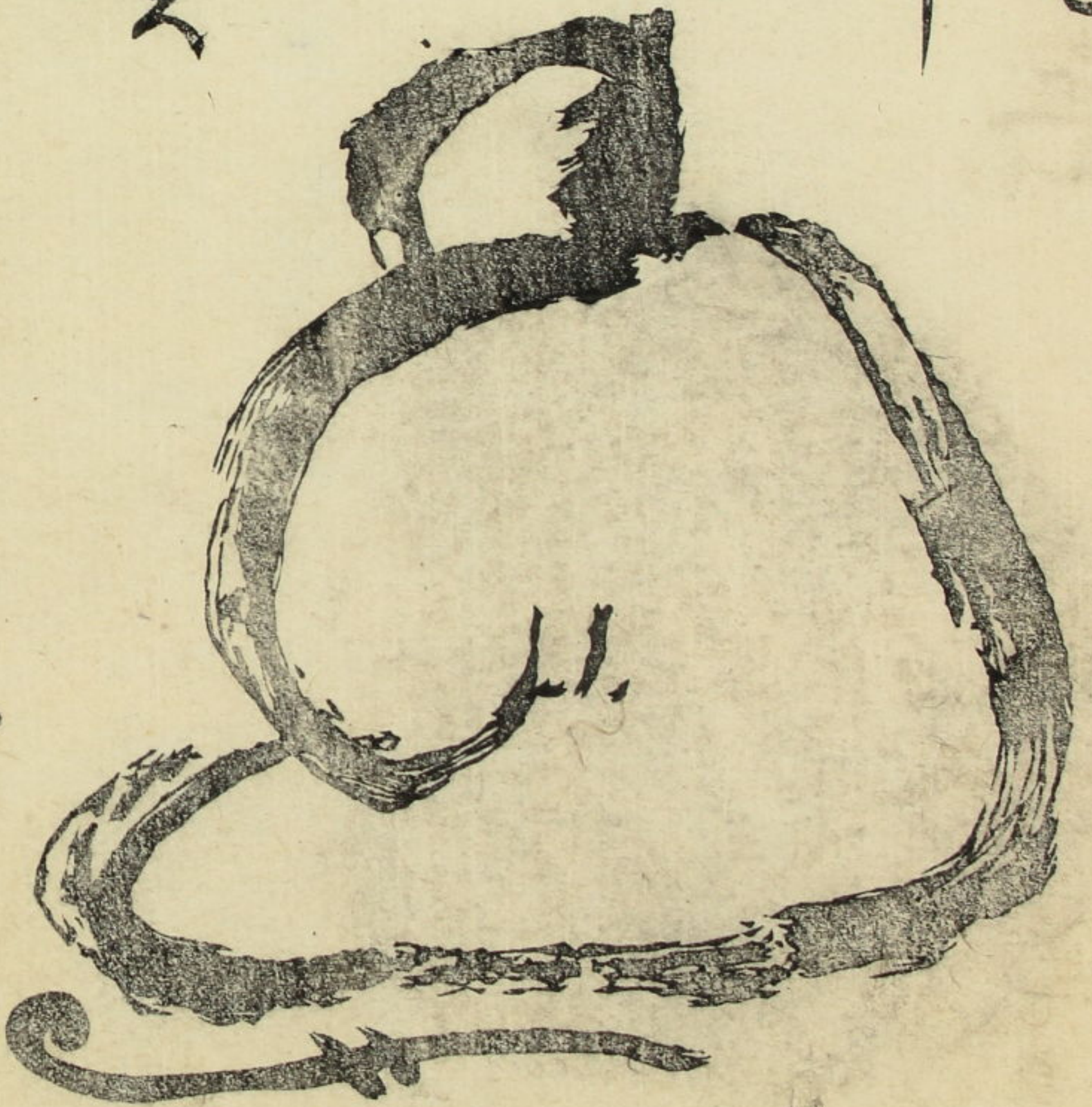
風下

河原

清女

東之

可餘



肩係

土手

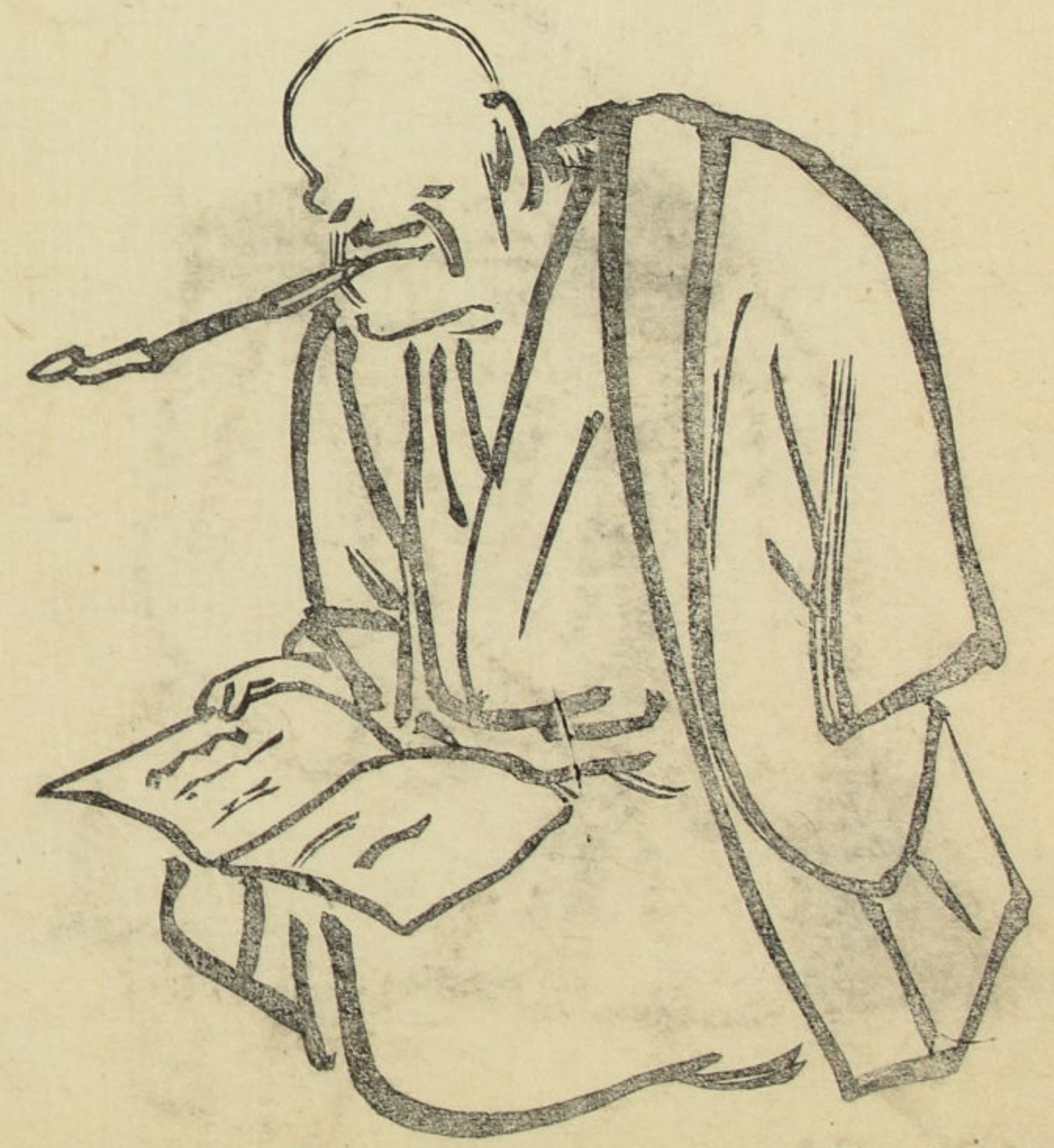
を

柳

豊岳



かきあひ  
さくき  
礼多  
後はく  
野坐  
う新  
おのり



くきお中形  
阿多  
是袂  
と柳



及 不 善 也 之 秋

三

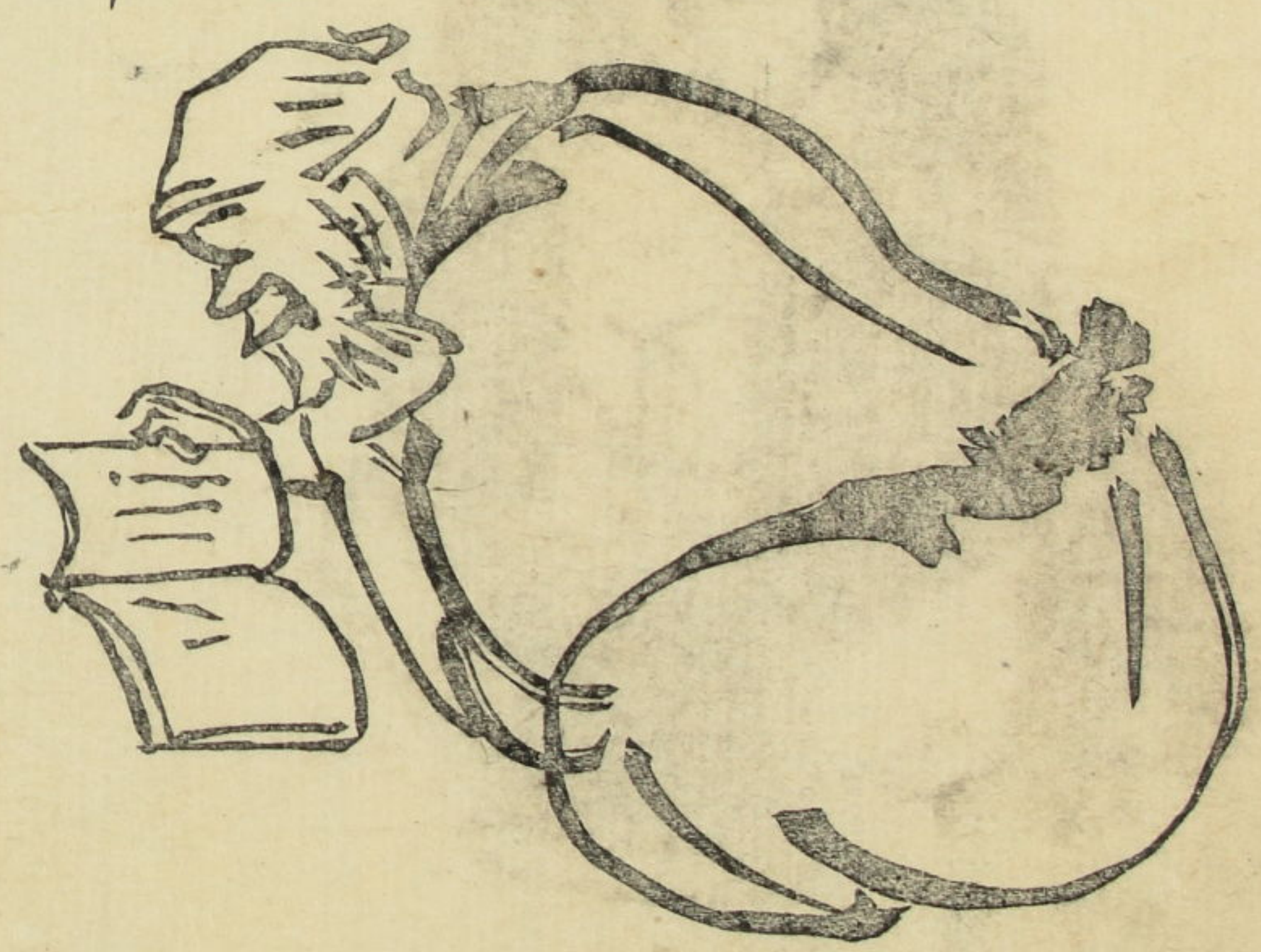


教 令 也 四 語  
豆 汁  
相 園  
孫 歸



ちる花を  
ちりま梢  
はさくらふ  
う那

高麗軍



袋もたてた  
手はまら  
ふ合

の花  
風朗



若くはと

あは

あは

あは

あは

由



家

あは

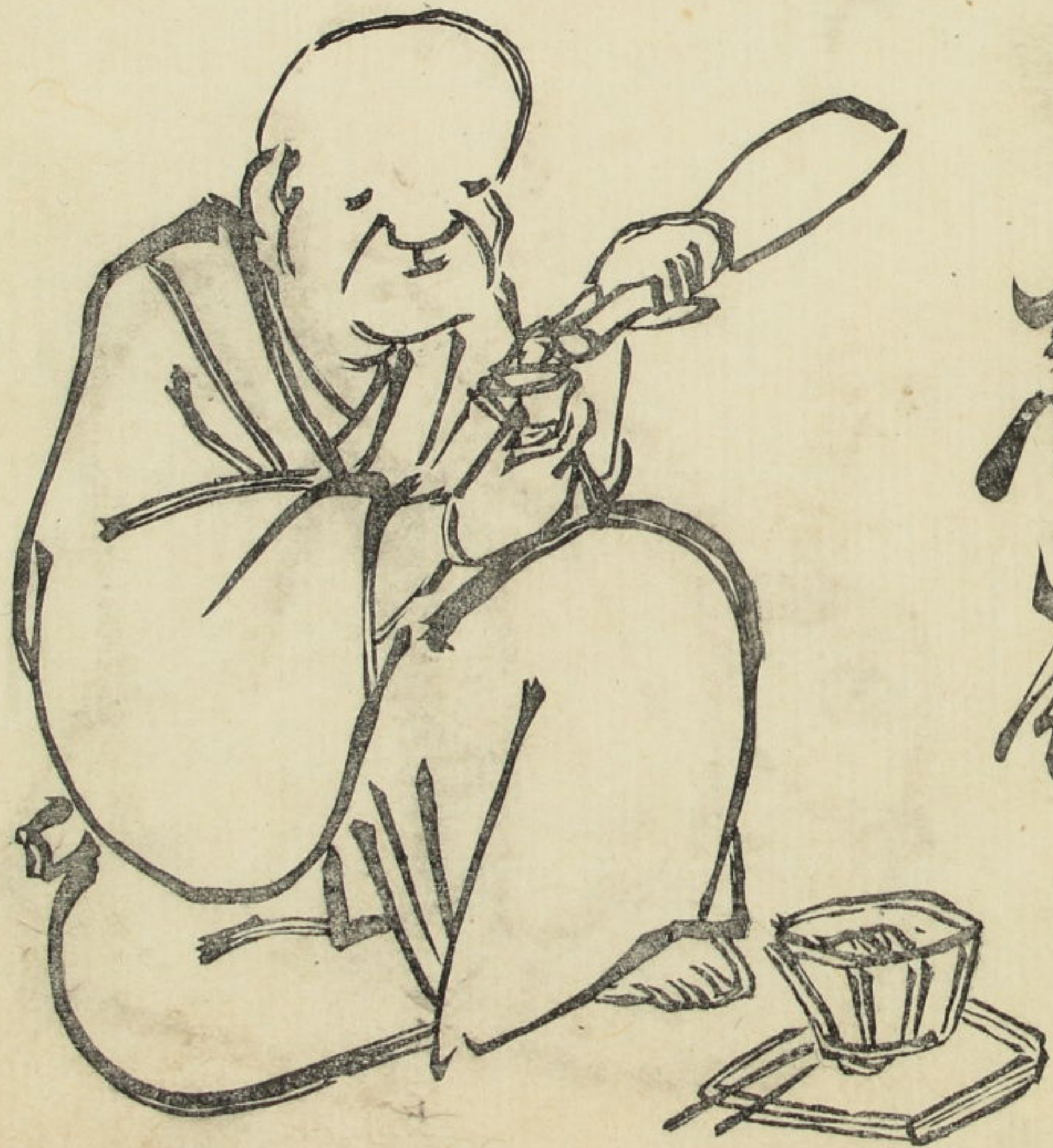
あは

あは

月

あは

あは



影まは

文書

戸

時



梅

海濱や物のをー知らばおよ木  
み山のその木さすを持ーし  
首末を吹流ふ風のさすせそ  
控ひのめさの房を門く  
られののめ大いふはさう持ひ  
人すらむののさをもさし  
味ふれー身上げあき深ふ  
出温泉の煙けりなむくえ  
さすけりさすーまはれん

紅碩

丈雪

碩

雪

碩



狂ものいふ事——を大 糸  
やことハ能く柄ある。其又の  
形代 淋々 濡れ 夕 風  
病氣もわくさつ月よ 舉り合  
多打も 匂ひ ふうよ 刺さる 麦  
増山やんこもさあし 刺麻の妻  
源の 價ふ 小 舞 舞  
米——の 翁 仲か 花のうけ  
壺より 解 我 免 忌 碓 水

雪、碩、雪、碩、雪

孫代や 和 哥 入 喜 風 吹 なる  
心 印 施 とも 玉の ちうら を し  
雨 能 寂 古 竹 の 夢 雲 志 ち  
切らぬ 夢 夢 夢 布ハ 朽 ち  
之を 猫の 糸 三 階を 夢 夢 夢 二 月  
出ぬ 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢  
夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢  
佛の 推 言 し 情 夢 夢 夢 夢  
續の 皇 世 夢 夢 夢 夢 夢 夢 夢

雪、碩、雪、碩、雪

心者割る者のともしや  
 月相もたえぬ幾の位か  
 津の乃盛入つゆを  
 四十雀老るあひこた  
 娘よーあきと別れ  
 毎々安く寝るも  
 人み畑まのまゝ  
 るとや未だあゝ  
 もいぬまらと

碩、雪、碩、雪、等

清  
 日

貴  
 及  
 貴  
 口  
 寸

玄  
 廣

印  
 印

妻うれやまし

あまのこゝろの

うきけを告ぐ

うきこもれ

十二文

富 皇女史



あまのこゝろの  
うきけを告ぐ  
うきこもれ

葉隆

三景八景の舞



遊曲仕

神楽園

杉本

神楽をよめるあま

扇まけ

竹馬舞の

まじり

あまのこ



清松  
幽竹  
興

廬華



晴  
海  
雲

好  
山  
色

月  
可

兼  
羨

道  
友

杏谷内書

溪齋  
翻印



雪らりて心をも梅より梅を  
心と別りて小律系厚の秋  
中船小波干乃連秋宿りて  
云秋系正系の撰集此文字  
撰りて了る秋さき一は作月  
壁乃破を凡小多秋秋  
奇合今て夜を小秋と撰りて  
仰通心もあつてきふ秋秋  
過去り能く秋秋と撰りて

秋 秋 素 秋 二 一 心 秋

春秋系核小鳩乃啼あり  
猶秋色と秋秋と撰りて  
意秋干と撰りて小秋乃と撰り  
山秋撰りて夕暮りの影撰りて  
喉撰りて多系正系の系  
不のくも撰りて秋と撰りて  
猶く撰りて秋と撰りて  
わ乃と撰りて秋と撰りて  
任連撰りて秋と撰りて

素 秋 二 一 心 秋

山 雲 滿 存

東 隱 齋



加 藤

野 系

寸 已 馬

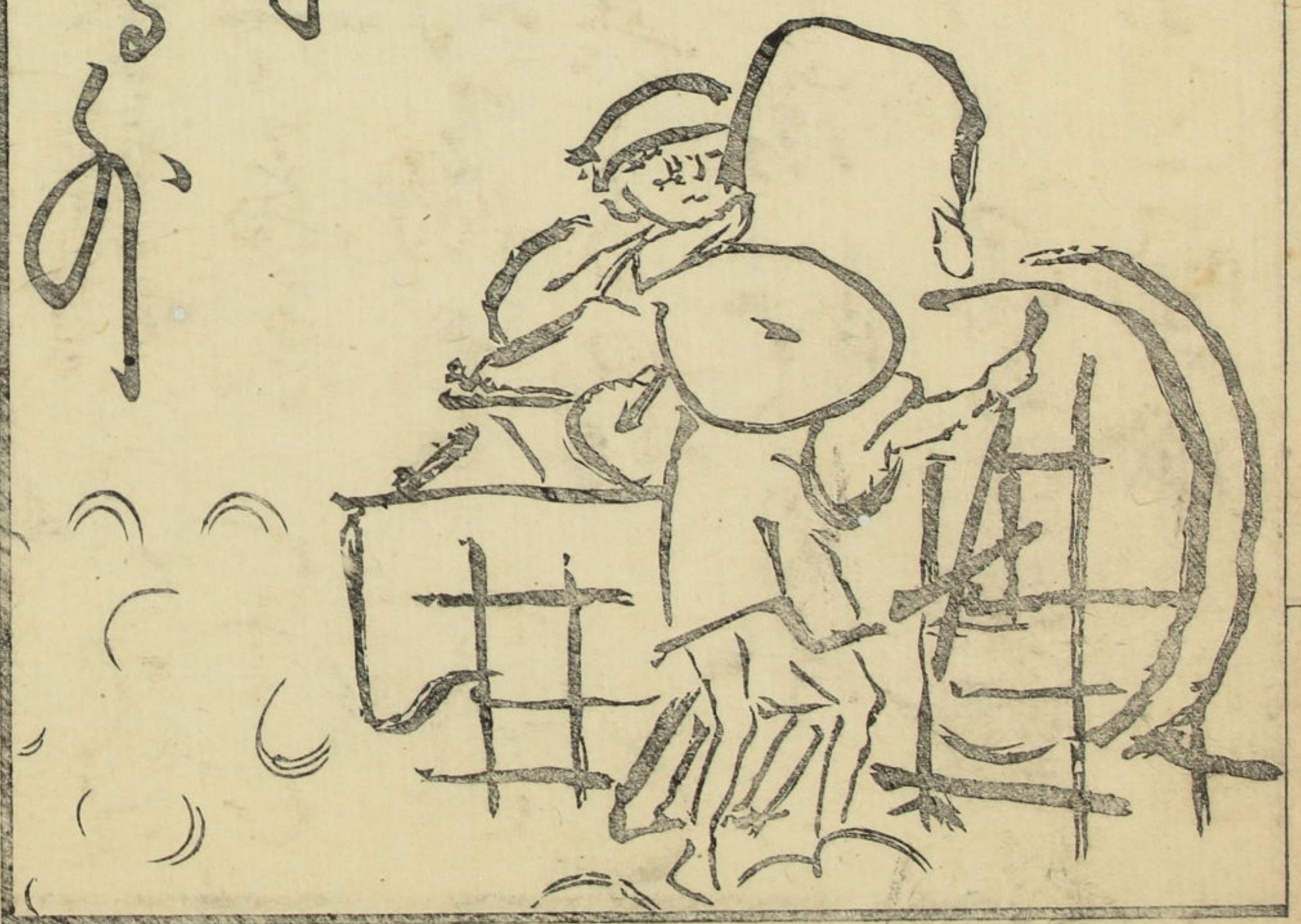
皇 人 之 牙

青 州

今 水



一口瓶  
 念之口吐  
 勇之能  
 雷傳  
 行一也  
 橫肉如也  
 禁何人如也



以獨生能  
 急出月轉  
 標清斗箕  
 為流五滿  
 漱石如

卷之三十五  
 一陽解

此中又款  


名月如

松  
解

海

粟花

清

插

多

子

竹

著

一信  
多佳  
不  
不

梅岳  
采



煉舞ぬ

心新無海王

海王の身

心紅

家不神といひの松と称し其一奇樹と  
 八尺余方七間斗りて斲りて常磐の  
 宮にうつりては時のあやめ絶えなく  
 形状いしや縮景にあはるるも  
 といふ常にけ樹枝目あふれ世と  
 おしはく位をのぞく松をぬく  
 意しと測りてそよ風の古  
 向常軒乃斲と樹をなせ  
 是つ水すまへて成れ也

神といひの松縮景圖

杵書

の

志

麻の

向常軒松

采園并馬



東之南也

觀海亭

水之南也

田畦

美生堂

武陽菴

鯉江

古石

五

那之寺也

日之寺也



西陵  


岩  
 山  
 海  
 也

築  
 持  
 老  
 旅  
 の

子  
 の  
 名

水  
 流

森  
 の  
 名

暇白子空

後しるる

嘆ふる

あふ

文山下竹島のあふ

そおのゆいゆのあふ

とふしゆのあふ

きんぎょのあふ

うさぎのあふ

又書于... 人... 月... 花...

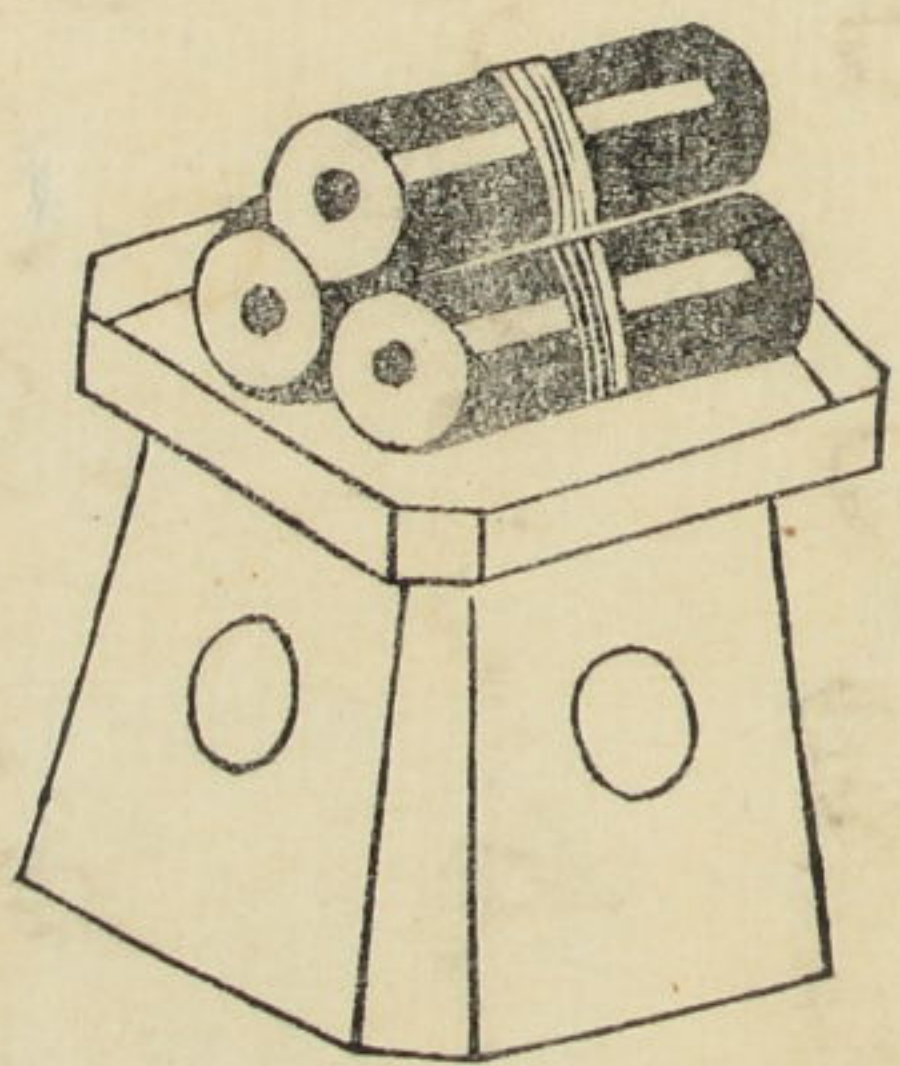
康志... 花... 中... 今... 花... 花... 花...



之...  
...  
...  
...

惺々西馬  
[Seal]

余自幼志於  
數術今從旭  
山先生免許  
依之為披露  
載于此



柳澤東楊齋

關流七傳

源伊壽

五

天保十一庚子五月出板

三十六句集 前編

同 後編 近刻

彫刻師

東竹離



